



NO.1384

10月2日号

発行所

日本共産党
網走市委員会
網走市北八西三
四三二四四八
F 四三二四四七

令和3年度決算審査

認定できない議員が6名

26日、決算審査特別委員会では、令和3年度決算について認定するかしないか意見の取りまとめが行なわれました。

日本共産党議員団は一般会計について不認定と意見表明しました。また、近藤議員（志政会）、金兵議員（民主市民ネット）、小田部議員（同志会）、栗田議員（無党派）が、理由を述べて不認定とし、半数の6名となりました。会派内で意見が割れるのは、近年ありませんでした。

この間、市民の意見をきかない姿勢や議会を軽視した市政運営に対し、議員の厳しいチェックが働いた決算審査特別委員会となりました。



認定とは 決算について審査した上で収入・支出が正当に行なわれたかどうかを確認すること。

松浦議員が反対討論

27日、決算審査特別委員会の立崎委員長が一般会計では、大方の意見として認定すべきと報告しました。

それに対し、日本共産党議員団を代表して、松浦議員が反対討論に立ちました。



一般会計では、コロナ対策の支援金など対応してきたことや子ども医療費の拡充、就学援助や住宅リフォーム助成事業など評価できるとしました。

ごみ処分場対策などの問題

しかし、336億円もの地方債残高で、市の財政は予断は許さない状況だと指摘しました。ごみ処分場問題では、埋め立て当初から対策を指摘されているのに放置してきたこと、職員の時間外勤務の改善が図られないこと、学校給食調理場の集約化ありきで推し進めたことなどの理由から、一般会計については認定できない。

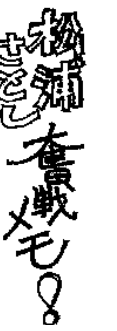
特別会計については、高い保険料が未納者を出し、命にかかわる保険証の取り上げをする国保会計は認定できない。また、網走港整備、介護保険、後期高齢者医療の特別会計についても認められない理由をのべて反対しました。

面白かった

「檻の中のライオン」講演会

「平和の願いをあばしりから」主催の憲法講演会が約60名の参加者で開催されました。

広島県出身の棟（はんどう）大樹弁護士が、ぬいぐるみを使いながら権力者をライオンにたとえ、「暴れださないように檻をつくった、この檻が憲法です」と何度も檻をライオンにかぶせ、「守らないといけないのは政治家。守らせろのが、私たち。こういう関係にあることを有権者が知っていれば、投票率や選挙の結果はもっと違うものになるのではないのでしょうか」と話しました。



9月議会が終わりましたが、初めての経験がいくつかありまし

た。一つには、決算審査において与党と言われる議員の数人が決算状況について厳しく指摘し、答弁不能になることがしばしばありました。

二つには、決算審査特別委員会が要求して出ている資料の一般廃棄物関係の数字が、数年前から集計の仕方が変更になっていたのに、そのことが説明されておらず参考資料にはならないため、後日訂正された資料が配布されることに。あまりにもいろいろあり過ぎて決算審査特別委員会の採決では、不認定と認定が同数になり委員長が認定の判断をして決算が認定になりました。また、本会議においても同じことが起きて議長が認定することで認定になるというものでした。

水谷市政に対する批判の声が市民からも議会側からも日増しに大きくなっていくことを実感する9月議会でした。市民のみなさんの期待に応えるため引き続き頑張ってください。

流水

今月初め、七福神まつりで行われた「七福神ウォークラリー」に初参加しました。配られた

資料によると、昭和4年に市内の有氏7名により、それぞれの箇所に社祠が建立され、年2回市民が巡礼して回ったことが始まりとのこと。▼網走神社の弁財天から始まり、台町、モヨロ浜、向陽ヶ丘、大曲、天都山の福祿寿と布袋尊とアップダウンのともなうコース。普段車では通らない道や歩道橋を渡り、お天気にも恵まれ高台から望む美しい山や海に歓声をあげ、エゾリスの動きに足を止めたりしながら、途中揚げたての長天やザンギ、ポイントごとに飲み物が支給され、やっと思いで登り切った流水館でのお弁当。休憩後はひたすら坂道を下り、まつり会場に拍手で迎えられてゴール。▼約22km、3万歩あまりの行程でした。3日分は歩いたね、とお互い讃えながら記念の絵馬と紅白饅頭をもらって解散。参加費もなく、食べたり飲んだりお土産まで、恐縮しながらも楽しんだ一日、おすすめです。

柿ピー子



国葬反対



国葬が強行された9月27日、「ストopp戦争法！網走の会」は、14時から緊急の宣伝行動を行いました。緊急の呼びかけに15名の参加者が集まりました。市民から託された手紙も代読され、「国を挙げて安倍氏礼讃、弔意を強制するような国葬に反対します」の訴えが響きました。